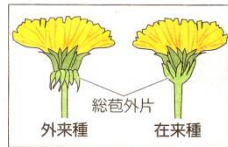
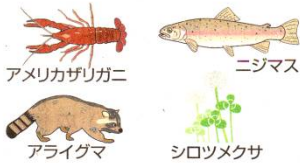


あそび

Newspaper In Education Kids



ふむふむ 在来種と外来種



もともとその地域にはいなかったのに、他の地域から人が持ち込んだり、乗り物に紛れ込んだりして入ってきた動物や植物が「外来種」。その地域にもともとすんでいた生き物が「在来種」です。クローバー(シロツメクサ)やアメリカザリガニ、ニジマスなどは外来種です。地域の自然に大きな影響を与える外来種もいます。アライグマは、ペットとして日本に持ち込まれました。しかし、飼い主に捨てられるなどして日本中で増え、農作物を食べるなどの被害を及ぼしています。

「ふむふむ」は、点線部分で切り取ってノートなどに貼りたい。

身近な花のタンポポを観察してみよう。実は花の下の総苞外片という緑色の部分が下向きに反り返っているタンポポは、海外から入ってきた外来種。写真1です。日本にもともと咲いていた在来種は上を向いて伸びています。

色々の部分が下向きに反り返っているタンポポは、海外から入ってきた外来種。写真1です。日本にもともと咲いていた在来種は上を向いて伸びています。

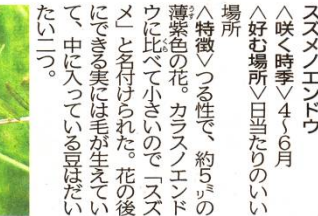
観察してみよう。タンポポなどの種類があり、明治時代にやってきました。在来種と違って雌しべに花粉が付かなくとも種ができます。開花などで在来種が減り、外来種がどんどん増えています。

きました。西日本の大学や博物館が呼び掛けた「タンポポ調査」西日本2010では、中国地方で調べたタンポポの6割が外来種でした。

カラスノエンドウ
＜咲く時季＞3～6月
＜好む場所＞日当たりのいい場所
＜特徴＞つる性で、1.5m前後の濃いピンクの花。エンドウ豆などマメ科の仲間。花の後にできる美から笛を作ることができる。



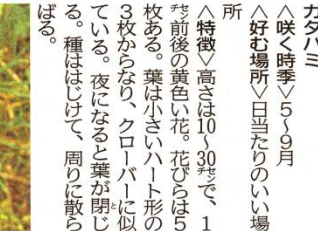
スズメノエンドウ
＜咲く時季＞4～6月
＜好む場所＞日当たりのいい場所
＜特徴＞つる性で、約5mの薄紫色の花。カラスノエンドウに比べて小さいので「スズメ」と名付けられた。花の後にできる美には毛が生えていて、中に入っている豆は小さい二つ。



カスミ草
＜咲く時季＞4～6月
＜好む場所＞日当たりのいい場所
＜特徴＞つる性で、5～7mの紫色の花。カラスノエンドウとスズメノエンドウの間くらい大きさなので、頭文字の「カ」「ス」の間(く)というところから、カスミ草と名付けられた。



カタバミ
＜咲く時季＞5～9月
＜好む場所＞日当たりのいい場所
＜特徴＞高さは10～30cmで、1つ前後の黄色い花。花びらは5枚ある。葉は小さいハート形の3枚からなり、クローバーに似ている。夜になると葉が閉じる。種ははじけて、周りに散らばる。



ナズナ
＜咲く時季＞3～6月
＜好む場所＞日当たりのいい場所
＜特徴＞高さは10～40cm。約3cmの白い花。ハート形の実がある。別名ペンペン草。実の形を三味線のバチに見立て、三味線が鳴るペンペンという音で名付けられた。



かわいい野の花みつけ



「野の花は小さいけれど、気に入った花があれば、ちょっとしゃがんで、花や葉の表面をルーペで、ぞいてみよう。葉っぱに小さな毛が生えていたり、花びらに筋があったり、花の世界にも不思議がいっぱい。

君だけの図鑑に

観察カードも作ってみよう。色鉛筆で花をスケッチしてもいいね。カメラがあれば、周りの様子も一緒に撮影。家に帰って図鑑で調べる時に役立ちます。

草木がぐんぐん伸びる季節です。ほかほか陽気の日のは、のんびりと家の周りを散歩して、野の花を探してみよう。学校へ続く道端や電柱の下、公園や川土手…。見慣れた場所にも、かわいい野の花が咲いているよ。(宮地佳代)

観察に持って行こう
ルーペ
カメラ
メモ
ペン
色鉛筆
Xマ帳

君だけの図鑑に

お父さんやお母さん、友達と一緒に身近な自然を感じてみて下さい。咲く時季や生える場所、名前の由来を調べていくと、どんどん興味が膨らんでいくよ。

ジシバリ
＜咲く時季＞4～7月
＜好む場所＞田んぼのあぜ道や石垣など
＜特徴＞高さは10cm前後、2～2.5cmの黄色い花。丸みを帯びた葉が茂る。地面をまるで縛るように伸びるので、「地縛り」という。



キランソウ
＜咲く時季＞3～5月
＜好む場所＞土手や石垣など
＜特徴＞約1cmの濃い紫色の花。葉を放射状に広げ、地をはうように伸びる。地面にふたをするように広がるので、「地獄の釜のふた」とも言われる。

